

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	ふるさとかへりて（短歌）
Author(s)	楠見，榮次郎
Citation	龍南， 1 7 2： 6 6 - 6 7
Issue date	1919-10-23
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6634
Right	

ためさるる目に

長
光
泡
影

- 思ひ亂れうら若き身を殺さむとうつそみのうれひせまり來るも
- 疑ひのあゝわかき日よ血にまみれ落日の濱を狂ひ走らむ
- 逃れんとすれば手ありて我をひき寂しき歩みを今日もするかな
- うら若きわれの寂しき世界にも君は太陽の如てりそゝぐなれ
- 憂なしわが世は何のうれひなし夏草の中に暮るゝふるさと
- うつそみに再び會はむ日のなしと連絡船に乗ればかなしも
- いにしへの防人たちが泣きたるといへる筑紫に落日を見る
- まことなき歌のしらべかあはれ若うもだゆる胸に今日もみつるは

ふるさとにかへりて

楠
見
榮
次
郎

- かたくなに母にさからひつと熱きなみだわきけり二十三にして
- なにものか求むるなるか廣き野をふたりなきつゝ相抱きつゝ

○白日の光きびしく青草のしなへる原に蝶一つ飛ぶ
○朝露のうつろふゆへかこの犢牛まなこうるほひしげくを見る
○ちらりちらり西瓜畑のあとにもゆ火の山風ふけば
○星無數呀にざねとして粟の穂の匂ひさやけく暗に流るも
○何となく死に近づくとおぼえぬめづらかに心さよまりくれば
○花芭蕉黄なる花びら破れたるわが憂鬱の心のまへに
○廢園の夕べのなかに花芭蕉うつらうつらと黄にほふなり
○あやなくも女難にあはめとほつけたる易者はいひて去りゆきしか